

パネル・ディベート後の意見文

第二次意見文の作成

パネル・ディベートを行った後で、一人一人、2回目の意見文を作成しました。これは、話し合ったことで明らかになったことを意識化させていく学習であり、話し合うことの意味を実感させることにもつながります。

また、自分の立場に固執するのではなく、いろいろな意見を取り入れ、それを踏まえて自分の考えを深めることができたかどうかを評価することができます。そして、生徒にその変化や深化に気づかせることができれば、討論の効果が生徒の文章に表れたといえます。

生徒同士による相互批正

第二次意見文が出来上がったところで、相互批正の時間をとりました。生徒による相互批正の評価は、生徒自身が学級集団の中で認められ、自分のよさに気づくことになり、意欲的に書くことにつながります。

多くの友達の様々な視点からの相互評価は、一人一人の評価観を広く深く多面的にします。ここで大切なことは、友達の作品のよさを認めるという方向での相互評価です。同時に、友達の様々な評価を受け入れようとする姿勢です。

具体的には、色別に感想カード（緑）、質問カード（赤）、アドバイスカード（黄）の3種類のカードを用意しました。そして、友達にどんなアドバイスをもらい、その後、どんなふうに加除訂正したかを一覧表にまとめた後で清書しました。

〈感想カード〉

私は告知した方がよいと思う側ですが、やはり本人だったら病名自体を知らせてほしくないです。〇〇さんの文のおかげで、自分の中の告知に対する意見をまた一つ見つけることができました。

〈質問カード〉

家族の方々はどうなるのですか。何も知らずに亡くなった本人はまだよいですが、残された家族は、この先どうやって告知しなかったということを背負って生きていかなければならないのですか。

〈アドバイスカード〉

自分の考え（意見）をもう少し入れると、すばらしい文になると思う。

自己評価の記述から

3月5日（木）

今日は、立論と最終弁論を考えて下書きし、原稿用紙に書き写した。みんなが分かりやすいようにと考えながら書いたので、時間がかかってしまった。みんな楽しく協力してできたのでよかった。他のグループの人たちも協力してやっている様子だった。

3月6日（金）

今日は、楽しみにしていたディベートをやった。最初のうちは、緊張して、あまり意見をいえなかったけれど、後になってくると、積極的に発言することができた。反対尋問が私たちのグループしかなかったのが残念だった。たくさんあった方が盛り上がったと思う。今回のことから、次は反対尋問をたくさん出し合って、積極的な発言をすることが課題であると思う。

3月10日（火）

今日は、第二次意見文の相互批正をした。友達同士で読み合って、その人の考えていることがわかった。楽しくできたのでよかったと思う。早く次をやりたいと思った。